

## 1 法人の概要

## 1) 沿革

昭和15年12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年4月1日	布施高等女学校開校
22年4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更

健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止

23年 3月31日 健康栄養学科生活福祉専攻廃止

23年 4月 1日 東大阪大学こども学部アジアこども学科開設

## 2) 設置する学校・学部・学科 (平成27年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科  
アジアこども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 健康栄養学科  
幼児教育学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

## 3) 当該学校・学部・学科の学生数 (平成27年5月1日現在)

学校名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	277
東大阪大学短期大学部	健康栄養学科	55
	幼児教育学科	145
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	803
東大阪大学柏原高等学校	普通科	779
東大阪大学附属幼稚園		256
合計		2,315

## 4) 役員・教職員等の概要 (平成27年5月1日現在)

- (1) 役員 理事 7人  
監事 2人
- (2) 評議員 15人
- (3) 教職員 347人

	教員		職員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	10	10	20
東大阪大学	26	29	16	8	79
東大阪大学短期大学部	26	23	16	6	71
東大阪大学敬愛高等学校	47	15	5	2	69
東大阪大学柏原高等学校	54	13	10	7	84
東大阪大学附属幼稚園	17	0	6	1	24
合計	170	80	63	34	347

## 2 平成27年度事業計画における進捗状況等

### 1. 目標管理制度の充実

各教員に教科指導・学級経営・校務分掌の3つの分野に関して目標を持たせた。また、数値化できる項目、内容については数値化した目標を持たせた。

個別面談では、目標・目標値の確認と、目標達成の方法をより具体的に聞いた。最終の報告で数値目標に対する達成度、自己評価を提出させた。

### 2. 教科指導の充実

#### イ) 研究授業の実施

2月上旬 全教科の研究授業を実施 授業のない教員がほぼ全員授業見学を行い、授業の研究、向上に向けてよい研修となった。

早い時期の実施と、事後研修の拡充を計画している。

#### ロ) 生徒による授業アンケートの実施

7月の最終登校日に実施。各教員の授業について、具体的に「話し方は」「板書は」「説明の工夫は」「副教材の準備は」「適正な難易度か」など10項目に分けて生徒の評価を5段階に分けてアンケート調査を実施。また、文章による評価、感想、希望する改善点についても具体的に記入。個別に改善が必要な項目を校長より指摘。改善方法とその効果を目指した。

校長より夏季研修の中で授業アンケートの結果について改善を指示した。

#### ハ) 「総合的な学習の時間」についてクラスでグループ研究を行い、中間発表とまとめの発表を2年総合進学コース全体で行った。

#### ニ) キャリアプランニング

1年生では、自己理解・他者受容を中心とした能力の促進を通じて、自己の人生を考えていくきっかけを作っていくことを到達目標とした。1月に授業で行った内容を基にしたクラス別発表会を行い、各クラスそれぞれの持ち味を發揮した発表となった。

3年生では、社会性や自主性を身につけさせるとともに、自己実現を果たしていくためにキャリアプランニング能力を育成していくことを到達目標として実施。

### 3. 生徒指導について

#### イ) 問題行動の指導について

①今年度については問題行動、指導件数ともにおよそ半分に減少した。さらに、指導された生徒数も4割減少した。学校全体の取り組みの効果が現れたのではないかと考えられる。

②今年度から導入したイエローカードによる指導の効果が顕著に現れ、問題行動同様イエローカードによる指導も前年より3割強減少した。

#### ロ) 生徒会活動について

##### I. 球技大会

① 大半の生徒は球技大会の実施を肯定的にとらえ満足していると思われる。

② 進行がスムーズで審判と応援がしやすかったと全体に高評価だった。

##### II. 体育大会

① 昨年同様、各クラス用テントを設置し大きい旗をテントに飾ったことで良い雰囲気が出て自席にいる生徒が多くいた。

② 体育祭の来校者数が多く、観覧席が不足気味だった。来年度は土曜日実施のため、さらに多くの来場者があると思われる

##### III. 敬愛祭

- ① 生徒感想は満足度の高い結果だった。
- ② 来場者 1722 名（昨年度 1435 名）  
来場者数が年々増えている。
- ③ 舞台でのオーディション採用は非常に有効だった。来年度も継続していきたい。

#### 4. クラブ活動

- ① 陸上競技部、空手道部、柔道部の活躍は例年通り好成績であった。
- ② 体育館でのクラブ・サークル活動が盛んになり、クラブ加入数 男子 105 名 女子 204 名  
合計 309 名。男女とも増加。

#### ニ) 生徒相談係

- ① 今年度、サポート対象生 13 名
- ② サポート担任は、学年、学級担任、保健室、SSW と情報を共有しながら、進級（卒業）できるように日々の自習活動の指導を行った。定期的にケース会議を開催。定期考査、学校行事、長期休暇後など、節目にかけて学級へ戻れるように話しあった。

#### 4. 進路指導について

在籍人数 244 名 3 月上旬

コース		在籍	四年制	短期大	専門	就職	未定（浪人・アルバイト含）
普通科	総合進学	193	69	16	53	39	16
	こども学	34	12	11	4	3	4
	介護福祉	17	7	4	2	3	1
合計		244	88	31	59	45	21
%			36.0%	12.7%	24.2%	18.4%	8.6%
			73.0%				

- ① 平成 27 年度の進路状況は、昨年と比べ、短期大学と専門学校の進学率が下がり、就職率がその分上がった。四年制大学と未定はほぼ変わらず。

今年度の特徴としては、内部進学者の減少（計 27 名）、就職希望者の増加が顕著であった。内部進学者の減少に関しては、この学年には（特に S コースには）、内部の学校見学会・説明会などの機会が少なかったことが関係していると考えられる。就職希望者が今年度は特に多く、9 月の初回求人には 50 名が応募した。そのほとんどの生徒が就職内定を在学中に得られた理由としては、景況感の回復もあるが、就職担当者による新規求人事業所の獲得への努力によるものが大きい。

	就職希望者（4 月）	求人数（8 月）	内定者数（3 月）
H26 年度	34	173	23
H27 年度	52	245	45

#### ② 就職指導について

就職担当として企業を訪問し、企業の人事担当者と様々な意見交換をし、内定のお礼や就職した卒業生の様子を見させていただいた。また、企業訪問により企業の求める人材を直接聞くことができた。就職希望者も年々増加しており、企業との繋がりを更に深めて、生徒の選択肢を広め、内定者数の増加を図りたい。

#### 5. 入試広報について

##### イ) 中学校訪問

- ・ 生徒募集係 6 名で 280 校を年 2-8 回訪問。担当校以外のオープンスクール・入試説明会に参

加してくれた中学生の学校にも訪問し、よい結果につながった。

- ・ 東大阪市、八尾市内の6校から進路学習会に呼んでいただき、直接中学3年生に学校紹介ができたことが、その学校からの大幅な受験者増につながった。

ロ) 塾訪問

- ・ 入試広報部の係を中心に割り当てた。2回の訪問を行ったが、継続していく。
- ・ 在校生の出身塾を回ったが、遠方の塾はなくして地元を中心とした。

ハ) 広報活動

- ・ オープンスクール・入試説明会については昨年度の約1400名と比べ約1550名と多くの参加者を得ることができた。更に増やすため、次年度は回数を増やし7月に1回目を行う。
- ・ 手伝い生徒の協力が大きく、受験生が増えた1つの要因でもある。
- ・ 敬愛祭をOSとしたので中学生の参加が大幅に増えた。

ニ) その他

- ・ 学校新聞は広報活動・生徒募集に欠かせない重要な要素なので、生徒会新聞を保護者・生徒・中学校等に配布する。
- ・ 冬休み受験集中講座は、2日間で約580名の参加があり、昨年390名から大幅に増加した。受講生からも好評で本校の面倒見のよい教育が広がっているのではないかと。
- ・ ホームページでの広報活動を充実するために、毎週短期で更新した。

### 3 財務の概要

別添 平成27年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照